2025 ソーシャルワーカーデイ 映画上映会

主催：京都社会福祉士会・京都精神保健福祉士協会
京都医療ソーシャルワーカー協会

日時：2025年8月3日（日） 18：00開会（17：45開場）
会場： ハートピア京都（京都府立総合社会福祉会館） 3F大会議室
京都市営地下鉄烏丸線「丸太町」駅下車 5番出口（地下鉄連絡通路にて連結）

阪神・淡路大震災から今年で30年。この映画は、港町を舞台に人々の孤独と再生を静かに描き出した作品です。他者を支え、支えられる温かさを感じるとともに、寄り添う力の大切さを改めて考えさせられる一作。ぜひご鑑賞ください。

Social Workers Day '25

ソーシャルワーカーデイとは
社会福祉士や精神保健福祉士などのソーシャルワーカーの活動を推進し、その活動を地域の皆さまに知っていただくための事業です。

THE HARBOR LIGHTS

港に灯がともる

ストーリー

1995年の震災で多くの家屋が焼失し、一面焼け野原となった神戸・長田。かつてそこに暮らしていた在日コリアン家族の下に生まれた灯（富田望生）。在日の自覚は薄く、被災の記憶もない灯は、父（甲本雅裕）や母（麻生祐未）からこぼれる家族の歴史や震災当時の話が遠いものに感じられ、どこか孤独と苛立ちを募らせている。一方、父は家族との衝突が絶えず、家にはいつも冷たい空気が流れていた。ある日、親戚の集まりで起きた口論によって、気持ちが昂り「全部しんどい」と吐き出す灯。そして、姉・美悠（伊藤万理華）が持ち出した日本への帰化をめぐり、家族はさらに傾いていく――。なぜこの家族のもとに生まれてきたのか。家族とわたし、国籍とわたし。わたしはいったいどうしたいのだろう――。

圧倒的な取材量を基に、
アフター震災世代をリアルに描く
オリジナルストーリー

本作は2021年に公開した「心の傷を癒すということ 劇場版」を契機に、表情豊かな港町・神戸から世界へ響く映像作品を届けようと立ち上げられた「ミナトスタジオ」の船出作品。主人公・灯の苦しみや葛藤、成長を見事に演じ切ったのは今作が初の映画主演作となる富田望生。監督は、20年以上にわたり、NHKの演出家として「カムカムエヴリバディ」など数々のドラマを手掛けてきた安達もじり。神戸で暮らす人びとへの膨大かつ綿密な取材を基に、震災後をリアルに描くオリジナルストーリーを作り上げた。

参加費：一般500円（当日受付でお支払い下さい）どなたでもご参加いただけます。

＊主催団体会員は無料

※ 参加申込はQRコードから締切7月29日→